

ヤマトグループの取り組みと課題

2024.3.28

ヤマト運輸株式会社

グリーン物流事業推進部

高野 茂幸



物流業界の課題①

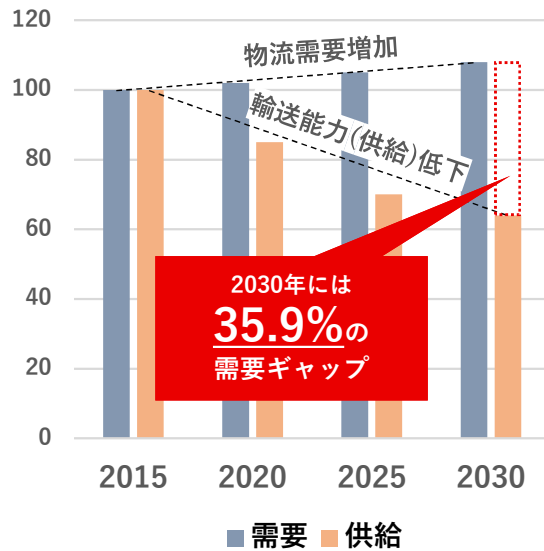
2024年問題への対策として待機時間の削減や荷役作業の可視化がフォーカスされていますが、最も深刻な課題は**輸送能力の低下**です。

トラックドライバーの働き方改革に関する法律が適用される一方でドライバー不足は益々加速し、今後の物流を持続可能にするためには**荷主企業と物流事業者が協力して生産性を向上させることが必要不可欠**となります。

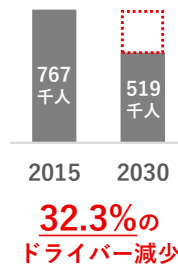
輸送能力低下の深刻化

営業貨物自動車の需給ギャップ

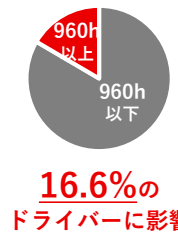
※2015年度を100とした場合



輸送業従事者数の減少

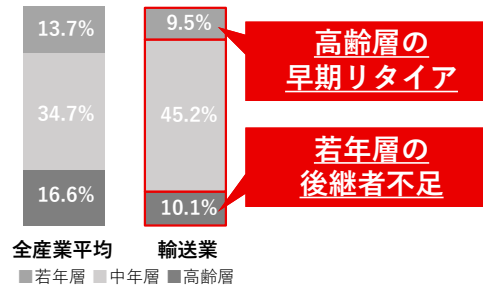


時間外労働の上限規制



ドライバー不足を加速する労働環境

偏りのある年齢構成



長時間労働・低収入

	労働時間/年	平均年収
全産業	2100時間	487万円
輸送業	2500時間	437万円

全産業平均より
19% 長い労働時間
10.2% 低い年収

労働環境を悪化させる非効率な物流

業務時間における稼働率の低さ



低積載の貸切輸送

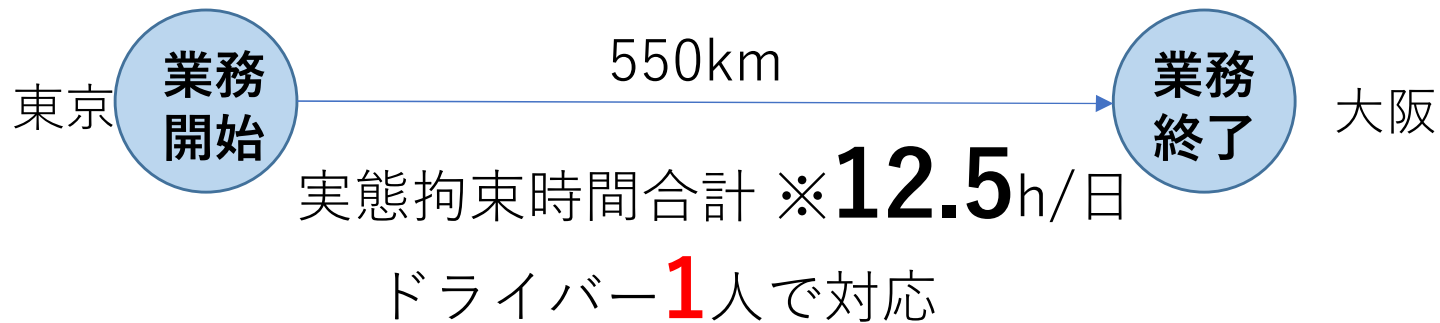


低積載が常態化

物流業界の課題②

現在、最も荷物が流動している東京-大阪間では、一人のドライバーで恒常的に輸送することが困難となります。

■現状実態（拘束時間 イメージ）



■働き方改革改正法施行後

2024年より
残業時間上限960h/年
拘束時間3,300h/年

実態拘束時間上限 **12h/日**

- ・ 時間通りに届かせるには **2** 人稼働が必要
- ・ 1人稼働の場合延着の可能性

※長距離輸送の他、積み込み積み下ろし作業や拠点移動などの時間含む

物流効率化の取り組み①



ヤマトホールディングス

ヤマト運輸

2023年6月19日
日本郵政株式会社
日本郵便株式会社
ヤマトホールディングス株式会社
ヤマト運輸株式会社

日本郵政グループとヤマトグループ 持続可能な物流サービスの推進に向けた基本合意について

【協業の主旨】

- (1) 両社の経営資源を有効活用することで、顧客の利便性向上に資する輸送サービスの構築と事業成長を図る。
- (2) 相互のネットワークやリソースを共同で活用することで、物流業界が抱える以下のような社会課題の解決を目指す。
 - ①「2024年問題」（トラックドライバー不足など）の緩和への貢献
 - ②環境問題（カーボンニュートラル）への貢献

【協業内容】

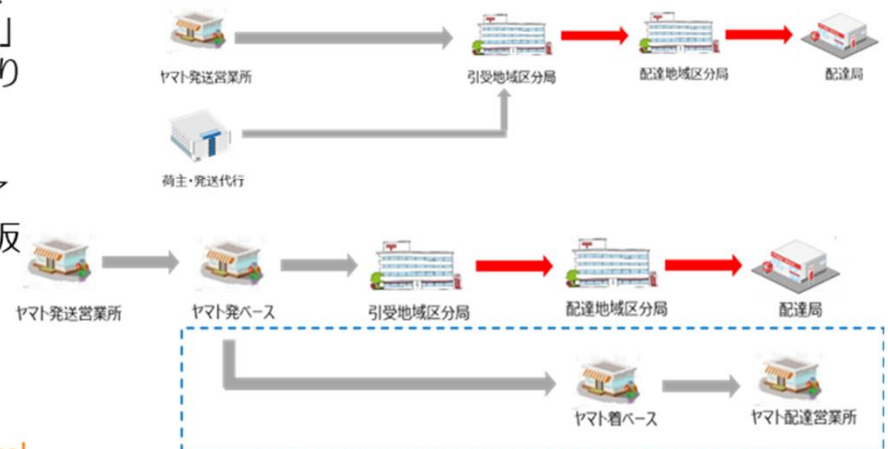
今後、両社が取り組む内容は、以下の通りです。

(1) メール便領域

ヤマト運輸が取り扱っているクロネコDM便のサービスを2024年1月31日に終了し、日本郵便が取り扱う「ゆうメール」を活用した新サービス「クロネコゆうメール（仮称）」としてヤマト運輸で取り扱いを開始します。ヤマト運輸がお客さまからお荷物をお預かりし、日本郵便の引受地域区分局に差し出し、日本郵便の配送網でお届けします

(2) 小型薄物荷物領域

ヤマト運輸が取り扱っている「ネコポス」のサービス提供を2023年10月から順次終了し、日本郵便が取り扱う「ゆうパケット」を活用した新サービス「クロネコゆうパケット（仮称）」として取り扱います。ヤマト運輸がお客さまからお荷物をお預かりし、日本郵便の引受地域区分局に差し出し、日本郵便の配送網でお届けします。
2024年度末を目途に、全ての地域で新サービスをご利用いただけるようにします。



https://www.yamato-hd.co.jp/news/2023/newsrelease_20230619_1.html

物流効率化の取り組み②

持続的な物流ネットワークの構築に向けて フレーターの運航を2024年4月から開始

— 羽田・成田空港と新千歳・北九州・那覇空港間に就航 —

これまで長距離輸送を担ってきたトラック、鉄道、フェリー、旅客機床下貨物スペースにくわえ、新たな輸送手段としてフレーター(貨物専用機)を活用することで、安定的な輸送力の確保やサービス品質の維持・向上を図ります。



(1) 導入機材

- ・使用機種：エアバスA321ceo P2F型機
旅客型機(中古機)を貨物専用機に改修
- ・導入機体数：3機
- ・最大搭載重量：28t/機(10t車約5~6台分)
- ・搭載コンテナ
 - AAYコンテナ(メインデッキ) : 14台
 - AKHコンテナ(ロワーデッキ) : 10台

(2) 運航路線・便数(4路線、21便/日)

- ・東京(成田/羽田) — 北九州
- ・東京(成田/羽田) — 札幌(新千歳)
- ・東京(成田) — 沖縄(那覇)
- ・沖縄(那覇) — 北九州

(3) 運航会社

運航会社：スプリング・ジャパン株式会社

(4) 環境への配慮

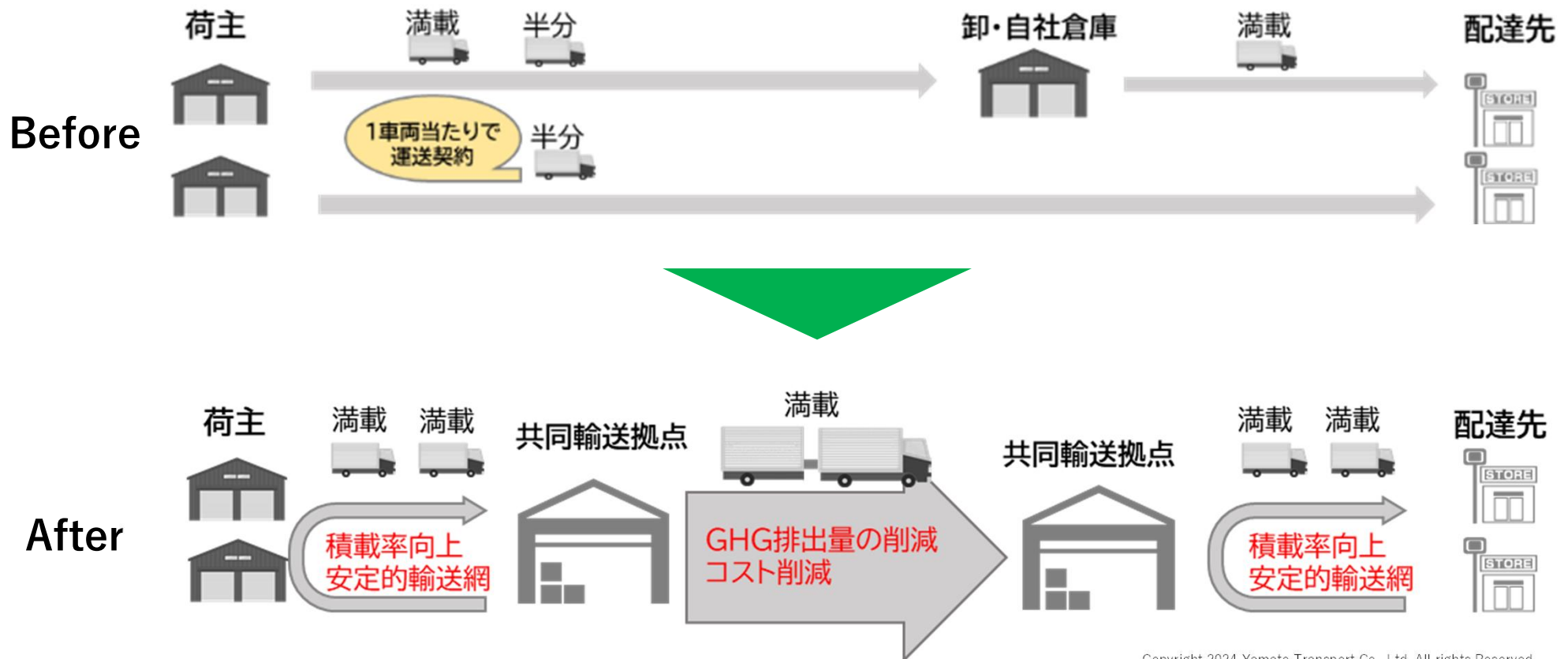
フレーターの導入により輸送手段の拡大並びに輸送スピードが向上することで、輸送ネットワーク全体の効率化を実現します。今後も環境負荷低減に向けて継続して輸送効率化に取り組みます。

物流効率化の取り組み③

荷主と物流事業者が連携した共同輸配送スキームの構築

ドライバーの労働環境改善 + 生産性の向上 + 脱炭素の推進

⇒ 持続可能な物流網の実現



自動物流道路について

(1) 期待

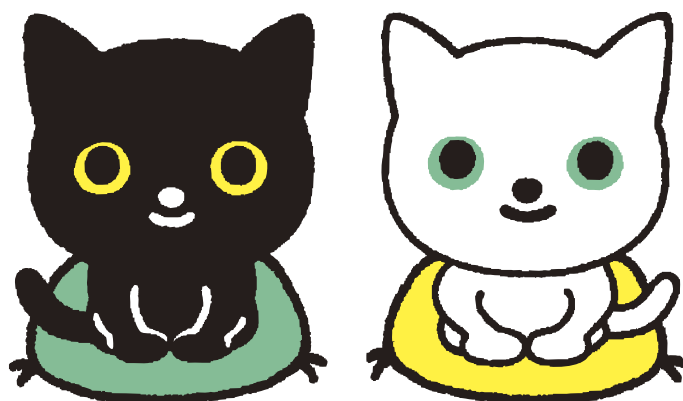
自動運転トラックと同様、運転士のリソースが省力化されるインフラが増えることには大きな期待をしており、ユーザとして協力したい。

(2) 自社の輸送への活用

幹線輸送と域内配送（ラストマイル）の双方で、インフラが整った区間から全国のどこであっても最大限活用したい。

(3) 考慮していただきたいこと

物流インフラを共同利用するには、荷役機材の規格化や、積み降ろし拠点の配慮、またそれらに対する荷主企業のご理解が重要となるため、企画・設計段階からそれらユーザ意見の反映をご配慮いただきたい。



ご清聴ありがとうございました